

関宿のウォーキングツアー

関宿は、江戸時代（1603-1867）に徳川幕府が江戸と京都を結ぶ東海道に置いた宿駅のひとつとして栄えました。しかし、関宿は平安時代（794-1185）にはすでに、京都から伊勢神宮へと向かう巡礼路が分岐する要衝となっていました。ですから、この町を見てまわるなら、町の東端の、伊勢へと向かう道が東海道から南に分かれているところから出発するのがおすすめです。伊勢へと続く道の入り口には、かつて伊勢神宮にあった大きな木製の鳥居が立っています。これは、1690 年以來 20 年周期で行われてきた社殿の取り壊しと再建が 2013 年に実施された際、関宿に下賜されたものです。

関宿を通る約 1.8km の道沿いにある 400 棟の建物の大半は、江戸時代後期から明治時代（1868-1912）中期にかけて建てられたものですが、中にはさらに古い建物もあります。そのひとつ、関地蔵院の裏手に立つ愛染堂は 1630 年に建造された三重県最古の建物です。

西に向かって歩いていくと、最初のスポットは「関の山車会館」、1700 年頃から毎年行われている関宿の夏祭りの目玉となってきた大きくて派手やかな二階建ての山車に関する資料館です。

この資料館のすぐ先には、木製の樽や桶を今でも手作りしている桶屋「桶重」があります。桶重では、失われつつある桶作りにおける巧みな職人技を目にすることができます。また、軒先の瓦の円瓦当には、この店の商品にちなんで、入れ物や容器を意味する「器」という漢字があしらわれています。

さらにもう少し行ったところにある関まちなみ資料館の建物は、1980 年代半ばにこの町が保存地区に指定された後最初に修復された家屋です。この資料館では、関宿の最盛期における市井の人々の暮らしを垣間見ることができます。

通りの北側の少し奥まったところには、関宿の夏祭りで使う背高な山車を収める「山車蔵」という天井の高い特別な蔵があります。その通りを挟んだ斜向かいにあるのは、百六里庭という小さな公園があり、その中にある眺関亭という建物のルーフテラスに上って、瓦屋根の向こうに広がる左右の景色を一望しましょう。西側には関地蔵院の高い屋根が見え、その彼方には鈴鹿山脈が望めます。

百六里庭を過ぎたところには、「松井電気」の看板を掲げた大きな建物があります。現在は建設会社の本社となっているこの建物は、かつて町に二つあった身分の高い客が泊まる大旅籠屋（本陣）のひとつでした。この建物は、歌川広重（1797-1858）の有名な浮世絵連作『東海道五十三次』に描かれています。

さらに少し進むと、関宿旅籠玉屋歴史資料館があります。2 階中央から通りを見下ろしている特徴

的な「焔の窓」が目印の玉屋は、かつて関宿最大の旅館でした。旅館の奥にある賓客用の離れは、関で類を見ないほどの規模と豪華さで、町の見どころのひとつとなっています。

玉屋の斜向かいには、歴史ある商店が集まっています。深川屋菓子店は、14代にわたって同じ家族によって営まれており、有名な屋根付き看板のある現在の建物は、1784年に建てられたものです。このお店は、伝統的なお菓子を販売しているだけでなく、小さな資料館でもあります。展示品には、18世紀に作られた豪華な担い箱も含まれています。螺鈿細工で装飾されたものは、天皇専用でした。

その隣は「お茶のかねき」という1865年創業の茶葉店です。静岡、鹿児島に次いで日本で第三位の茶葉生産量を誇る三重県のお茶は、うまみの強さが特徴です。このお店では、希望すれば試飲も可能です。

この二店に面した郵便局の西端には、江戸時代に幕府が使った昔の公示板（高札場）を復元したものが立っています。この板を通じて伝えられた最も重要な情報は、宿場町で利用できる貸し馬や荷運びといったさまざまなサービスの公定料金表で、こうしたサービスはすべて行政を通じて取り締まられていました。

そのすぐ先には、豆の餡が入った米粉のお菓子を商品とする「前田屋製菓」という別の老舗があります。

この道沿いの次のスポットは関地蔵院です。741年に建立された地蔵院には、日本最古の地蔵菩薩（Ksitigarbha）の像が安置されています。かつては町の名称にも地蔵が入っており、関宿はもと「関地蔵宿」として知られていました。（子どもの守護者というお地蔵様の役割を反映した）地蔵の像に前掛けを着せる習慣も、関宿発祥とされています。地蔵院本堂のすぐ裏手にある愛染堂は、三重県最古の建物です。

地蔵院の対面に並ぶ4軒の建物は、日本の異なる時代における建築様式の変遷を分かりやすく示していることで有名です。一番西側のレストラン「會津屋」から東側の「尾崎酒店」に向かって、それぞれの建物は江戸時代から明治時代、大正時代（1912–1926）、昭和時代（1926–1989）と時系列をたどっています。

ここまで歩いて疲れた方は、ここから北に向かい、観光案内所の隣にある公営の温泉「小萬の湯」で無料の心地よい足湯を楽しむのも良いでしょう。体力に余裕がある方は、ぜひ西の鈴鹿山脈の方に向かってさらに歩を進め、東海道から奈良へと続く道が分岐していた「西の追分（West Fork）」まで行ってみてください。関宿のこちらの端にある建物は、規模はやや小さめです。まだ修復されてい

い建物もあり、商業施設もないため、他の場所ではあまり見られない古き良き日本の雰囲気が残っています。